

## 右下肢腫脹を初発症状として 発見された右尿管癌の1例

なが み はる ひこ<sup>1)</sup> しお で のぶ おお<sup>2)</sup> さ とう よし とし<sup>3)</sup>  
 長 見 晴 彦<sup>1)</sup> 塩 出 宣 雄<sup>2)</sup> 佐 藤 仁 俊<sup>3)</sup>  
 はま もと りゅう いち<sup>4)</sup> こ うみ つとむ おお の ひろ ふみ<sup>4)</sup>  
 浜 本 隆 一<sup>4)</sup> 小 海 力<sup>4)</sup> 大 野 博 文<sup>4)</sup>  
 み うら ひろ し<sup>5)</sup>  
 三 浦 弘 資<sup>5)</sup>

キーワード：右下肢腫脹，右尿管癌，深部静脈血栓症

### 要 旨

今回65歳男性，右下肢腫脹を主訴に来院した右尿管癌の1症例を経験した。患肢は健肢に比し周囲径は大きく腫瘍による右総腸骨静脈への圧迫が原因であった。一般に深部静脈血栓症の病因としてVirchow 3因子が重要で血管壁因子，血流因子が血栓形成に重要である。総腸骨静脈は女性附属器，泌尿器，リンパ節に近接しこれら炎症が波及し静脈炎が発症しやすい。また総腸骨静脈は解剖学的に骨盤に沿って後方屈曲し腹圧により圧迫され血流は停滞しやすい。特に左総腸骨静脈は右総腸骨静脈と交叉し圧迫され，右総腸骨静脈に比し下大静脈への分流角度も鈍なため血流がより停滞しやすく，深部静脈還流障害，深部静脈血栓症の発生は右側に比べ多い。従って右下肢腫脹，右深部静脈血栓症の患者を診た場合は悪性疾患を含めた器質的疾患による骨盤内での右側深部静脈への直接浸潤による圧迫を考慮する必要がある。

### はじめに

日常臨床において下肢腫脹を主訴に来院する患者は決してまれではない。下肢腫脹は内科的疾患に合併した症状として出現することも多く，その鑑別も心疾患，腎疾患，甲状腺疾患，肝疾患，降

圧剤などの副作用などが考えられる。著者は以前に右下肢腫脹と鈍痛を自覚し歩行障害を訴えた患者に対して精査の結果，右骨盤内の軟骨腫瘍による右総腸骨静脈への浸潤圧迫が原因であり，外科的に骨腫瘍を切除し軽快した症例を経験した。

今回，65歳，男性で右下肢腫脹にて来院し，深部静脈血栓症（DVT）まで進展していなかったが増大した右尿管癌，所属リンパ節により骨盤内で右総腸骨静脈が浸潤圧迫され右下肢腫脹をきたした症例を経験したので文献的考察を報告する。

Haruhiko NAGAMI et al.

1) 長見クリニック

2) 松江赤十字病院循環器科 3) 同 消化器外科

4) 同 泌尿器科 5) 同 臨床病理部

連絡先：〒699-1331 雲南市木次町里方633-1